

第2章 協働事業に関する自己評価

協働とは、区民及び区が、それぞれの果たすべき責務と役割を自覚しながら、対等の立場で相互に補完し、協力して取り組むことです。この章では、今後の協働における課題・改善・期待などを明らかにするために、本事業を「あだち協働ガイドライン」のステップ4による協働事業のフィードバックに沿って、区・公社・足立グリーンプロジェクトがそれぞれの立場で事業を振り返り評価します。

2-1 協働事業の評価

協働事業の評価の考え方は、以下の各協働主体が遵守すべき原則（協働の共通ルール）に基づいて行います。

- ① 目的の共有の原則：協働の主体同士が協働事業の意義目的を理解し共有しあい、常に確認する姿勢を保つこと。
- ② 透明性の原則：協働情報の公開による協働機会の均等性や、協働プロセスの透明性・公平性・合理性が貫かれていること。
- ③ 相乗効果の原則：協働の主体同士が、お互いの特長を理解し生かしあい、単独では成し得ない効果をあげること。
- ④ 対等性の原則：協働の主体同士が、上下関係も依存関係もない対等な立場で合意形成をし、それぞれの能力・規模に見合った義務と責任を果たすこと。

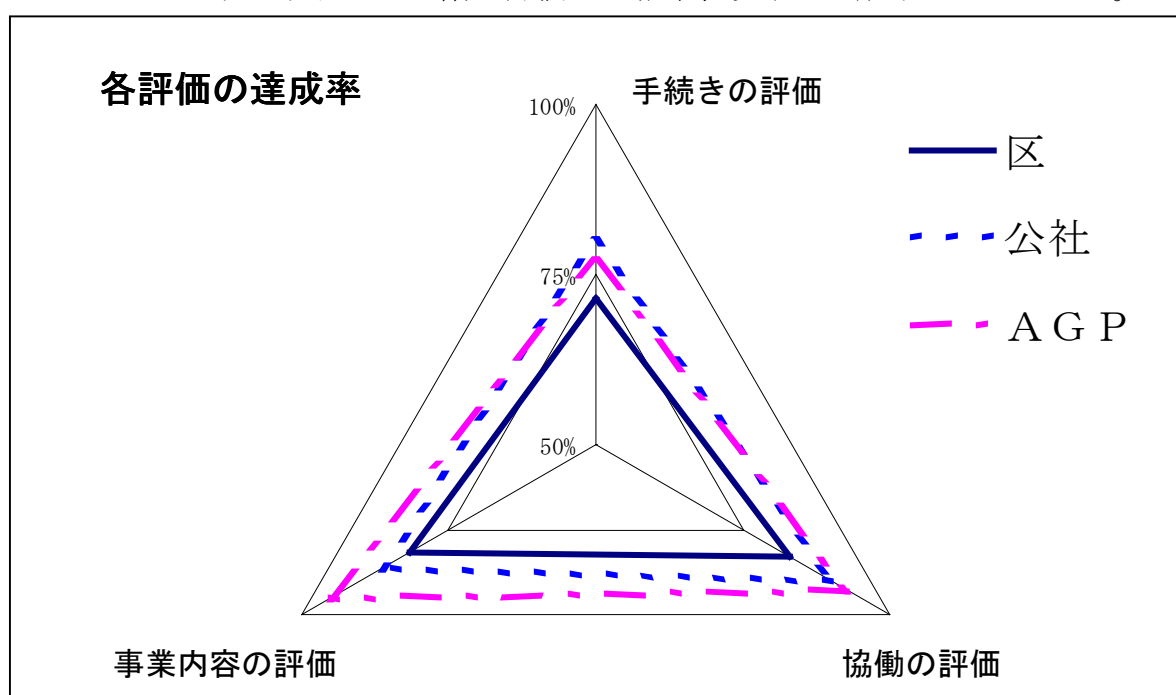
協働事業の評価の方法は、①手続の評価、②協働の評価、③事業内容の評価の3つのチェック項目で達成度を5段階で評価します。それぞれの評価をグラフにして協働の原則や内容でどの分野に対して努力が必要かなど協働の相手方同士で照らし合わせて確認します。

- ① 手続の評価：事業を進める上での手続きで、情報公開・手続きの適切性・事業を定期的に見直しているかの視点で評価するもの。
- ② 協働の評価：協働事業ならではの、連携方法・双方の特性を活かした高

い効果・役割分担・意思疎通・協働相手の育成・相手方の自立性をそこ
 なわずにできたかの視点で評価するもの。

- ③ 事業内容の評価：協働事業に限らず、事業の内容の適切性を評価するも
 ので、施策への適合性・区民ニーズにysteていたか・目的と事業内容の
 合致・費用対効果を考慮した適切な事業規模だったかを評価するもの。

3つのチェック項目を5段階で評価した結果、以下の達成率となりました。



	手続きの評価	協働の評価	事業内容の評価
足立区まちづくり課	71.42%	82.85%	81.53%
(財)足立区まちづくり公社	80.00%	90.00%	86.15%
足立グリーンプロジェクト	77.14%	92.85%	95.38%

<点数評価コメント>

環境問題に取り組んだモデル事業でしたが、3項目とも結果は合格点と言え
 ると思います。特に事業内容は、行政コストを要せず費用対効果はすばらしい
 ものでした。また、優れたコーディネート力により全国的に関心を集めること
 ができ、目標以上の成果がありました。

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小					評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]			
1	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。	
			事業に関する情報は、誰にでもわかりやすく提供されていたか	達成度の目安	協働の可能性のある事業の情報を早くから多くの人の目に触れるようにした			相手が決まる前に区報などの一部のメディアには公表した	特定の団体しか事業を知り得ることができなかった			
2	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。	
			区があるテーマについての協働事業提案を募集した際の、公募方法は適切であったか	達成度の目安	毎回、事業を始める前に広く区民が事業を知り得るようにした			複数の対象団体等の可能性を検討した	公募も、複数の協働相手の可能性も検討しなかった			
3	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。	
			事業の選考は、適切であったか	達成度の目安	選考体制、基準、対象などを定めた			結果として適切な事業が選ばれていると思う	選考らしきものはしていない			
4	協働に適した事業	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	区民参加型の事業内容で協働に適した事業であるが、目標が事後に測定可能な形で数値化されていなかった。実験モデル的な事業としてスタートしたもので明確な表現は難しい面があった。	
			事業の目的や成果が明確に示されていたか	達成度の目安	成果に関する目標が、事後に測定可能な形で、文章や数値によって明確に表されていた			事業が達成されたときのイメージが、具体的に文章化され、その目標が明確に表されていた	「こういう状況になればいいなあ」という目標が一通り検討されていた			
5	協働に適した事業	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	基本計画や分野別計画の施策に明確な位置づけはないが、実験モデル的な事業として区の政策に沿った事業と言える。	
			基本計画や分野別計画に位置づけられた政策や施策とあっていたか	達成度の目安	政策との整合性を検討し、位置づけが確認された			一部だけで検討し、特に問題ないと判断した	政策との整合性や事業の適切性の検討はしなかった			

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
6	協働に適した事業	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	休遊地の問題解決に向け、区民団体と行政が知恵を出し合いはじめた事業である。単独ではコストが掛かり問題解決は図れなかった。
			達成度の目安	単独で行うより協働で行うほうがよいことが明らかになっていたか	お互いの能力を理解し、相乗効果について明確になっていた		一部だけで議論、確認した	協働して行う意義について検討しなかった			
7	事業のニーズをはじめには	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	ヒートアイランド防止策や有機性廃物のリサイクルを実験モデル的に実践して、広く環境問題を発信し啓発活動を推進できた。
			達成度の目安	地域ニーズを明確にした社会的な課題を解決する事業内容か	受益者に関する情報を入手・分析し、事業に役立てた		受益者の意見を聞いたり、日頃の付き合いで得た知識を参考にした	地域のニーズは特に参考にしなかった			
8	事業の計画と着手	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	行政側の支出がなく費用対効果は素晴らしい。根拠あるコスト算定はしていないが、区側の事業計画に対する理解がうすかった。
			達成度の目安	得られる効果、コストを勘案して合理的に事業を計画したか	当初から根拠あるコスト算定を行い、無駄な出費や人的資源に負担のない事業計画ができていた		漠然とした事業計画であったが、結果として無駄な出費や人的負担なく行えた	適切な規模が想定できず、結果として予算不足や人手不足で事業に支障をきたした			
9	協働形態の選択	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	手探りだがお互いに知恵を出し合い特性・能力に応じて役割を選択できた。少し足立GPへまかせきりにした節がある。
			達成度の目安	適切な協働事業の形態を選択することができたか	事業目的と主体の特性・能力に応じ、役割や関与の度合いが適切だった		お互いに努力が必要だったが、何とか問題なくできた	理解できず、役割分担がうまくいかなかった			
10	協働相手の選定	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。
			達成度の目安	事業に時限性を設定するなど、ひろく他の協働主体の参入の機会を保障しているか	期間を限定し、機会があるごとに複数の相手先が参入できるように検討している		検討はしたが相手を変えていない	毎年行っていることなので期間も決めていないし、相手を変えることも考えていない			

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
11	協働相手の選定	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。
			達成度の目安	事業の目的や性格に照らして競争原理を確保した公正で透明性のある協働相手の選定ができていたか	客観的な数値化された基準があらかじめ公表され、結果も公表された			結果は公表された		競争はなかった	
12	協働相手の選定	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	地元住民提案によるモデル事業であり企画書による選定は合理的であった。
			達成度の目安	協働の相手を限定する場合、それ以外の相手を選択しない理由は明確になっていたか	当該事業を通じて育成すべき主体であることの合理的な理由が明確になっていた			限定することは明確になっていた		必然性が明確にできないため、不安が残っている	
13	事業の計画と着手	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	モデル型事業であったが、十分に得意分野の役割を發揮できた。
			達成度の目安	相手の特性や社会的な役割を理解した上で、協働事業の相手として妥当であったか	お互いの得意分野が有効に發揮でき期待した相手が選定できた			お互いに努力が必要だったが、何とか問題なくできた		期待した役割を果たす相手が選定できなかった	
14	目的・ゴールの共有	①	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	スタート時点では新しい価値観を出すために共通認識はあったが、行政側の担当者が変わり数値による明確な共通認識がうすれていた。
			達成度の目安	事業目的、事業で達成したいゴールについて、関係者の間で意識の共有がされていたか	双方同席の上充分話し合い、文章及び数値で明確に表したものを共通認識し、それを確認した			あいまいな内容だったが話し合いの場で確認はした		目的などについて認識はあったが、両方で話し合わなかった	
15	役割分担	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	事業の役割分担は明確にされており円滑に進められた。
			達成度の目安	役割分担は妥当であったか	役割分担を明確にし、当初双方で合意した通りに円滑に進められた			当初役割分担を決め、厳格に守らなかったが、特に問題にはならなかった		役割分担があいまいだった	

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小	達成度			評点の理由・特記事項	
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価			[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
16	事業の計画と着手	①④	協定書、契約書	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	モデル事業だが必要な内容を盛り込んであり双方合意の上作成し事業が行われた。社会情勢の変化に合わせて途中で見直しがあると良かった。
				契約や協定の合意形成は適切であったか			達成度の目安	考えられる必要な内容を盛り込んだ契約や協定を双方合意の上作成し、それに基づき事業が進んだ		合意はしたが詳細についてはあいまいだった		契約書や協定書は作らなかった、または、作ったが細かい内容記載しなかった
17	事業の計画と着手	④	計画性	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	足立GP側は綿密な打合せによりスケジュールは明確であったが、相互の連絡調整が足りず、理解不足が生じていた。
				事業計画や実施時期、スケジュールが明確に決められていた			達成度の目安	明確なスケジュールのもとに、業務の整理と役割分担が行われ、進行表、分担表が作成された上で運営された		担当業務とその業務の実施の時期は理解していた		実施時期が不明確で、担当者不在、特定の個人への業務集中など、全体の進捗に影響が出ていた
18	事業の実施	①④	事業の実施	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	HPでの情報公開や公社への業務報告はあったが、区との状況確認や意見交換は行われなかった。
				事業の進捗に対して、中間報告を受けたり、現地に赴くなど、その状況を確認したり、双方が自由に意見交換を行ったりしたか			達成度の目安	進捗状況が常に把握できる状況や体制になっていた		体制はなかったが、個人の努力により状況把握できた		問題発生後、相当時間がたつまで問題が把握できていなかった
19	協働事業の実態	④	事業の実施	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	基本的な体制は考えられていたが、特別な事故など、予期せぬ事態に対する対応は十分とはいえなかった。
				予期せずに発生した問題・課題に適切に対応できたか			達成度の目安	双方合意の上あらかじめ、予期せぬことに対応できる体制が用意されていた		体制は考えていたが、機能しなかった		予期できない事態に対応する体制は作っていない
20	事業の実態	①	事業の実態	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	足立GPは明確に認識していたが、行政側の事務引継ぎが上手く行っていなかった。
				事業中も、事業の目的や性格、期待する成果を双方が十分共有し、常に認識していたか			達成度の目安	関係者間で、事業目的やゴールが文書などで明確化され、それを達成しようと強く意識していた		関係者間で、漠然とした意識の共有があり、大きな食い違いはなく、問題は起こらなかった		関係者の中に目的やゴールをイメージできていない人がおり、事業に影響が出た

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小			評点の理由・特記事項	
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
21	事業の実施	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	足立GPのコーディネートにより区内にとどまらず、全国的に関心を集め、環境に対する意識の向上に寄与した。
			達成度の目安	協働相手とともに行うことにより、事業への区民の関心を高めることにつながったか	相手先のおかげで、区民の事業への参加者が増えた、関心が増した	どちらともいえない・変化はない	協働相手と行うことにより、関心が低下した				
22	事業の実態	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	双方が自由に意見を述べる場の用意はあったが、行政側が必要という認識もなく行われていなかった。
			達成度の目安	協働主体双方が、事業に関して自由に意見を述べる事ができたか	常に必要なお互いにお互いに意見を交換できる場がある	どちらかの努力により、意思疎通はできた。一部の人の意思疎通はできた	意思疎通ができていなかった				
23	事業の実施	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	事業内容は建設的で有意義であった。しかし、お互いの活動を通じて組織のレベルアップが図られたとはいえない。
			達成度の目安	建設的で有意義な活動ができたか	お互いに前向きに活動でき、事業遂行を通じて組織のレベルアップが図られた	一方のみは有意義だった	双方とも当初想定していた活動とはならず、不満が残った				
24	事後評価	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	モデル事業だったが事業目標以上に成果はあったといえる。
			達成度の目安	事業の目標は妥当なものであったか	設定目標の達成が明確に測定され、当初の目標と合致した	明確な測定は行っていないが、概ね妥当と感じた	全く予期せぬ結果で終わってしまった、または測定できなかった				
25	事後評価	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	双方の特性を活かし、未利用地の暫定利用を効果的に進めることができた。
			達成度の目安	結果的に、協働することにより双方の特性が活かされ、よりよい効果が得られたか	お互いの得意分野が有効に発揮でき、よりよい効果が得られた	相乗効果は得られなかったが何とか問題なくできた	双方の特性を生かせた結果が得られなかった				

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			大←達成度→小					評点の理由・特記事項		
						[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]					
26	協働事業のフィードバック	事業の見直し	①	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	5	4	3	2	1	足立GPは振り返りを行ってきたが、行政側は行っていない。
				事業終了後、振り返りをしているか	達成度の目安	双方が同じテーブルで話し合って結果が振り返れるようになっている				単独で行い、突合せをしていない		振り返りはあまり行わない	
27	評価結果	②	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	5	4	3	2	1	事業評価をはじめたばかりで結果の公表や改善提案はこれから考える。
				評価結果の公表や、評価への区民参加はできているか	達成度の目安	評価結果は公表し、区民からも改善の提案が行えるようになっている				包括的な評価結果の公開はするが、区民が意見を言う機会がない		評価しただけで満足し、公表していない	
チェック個数			7	14	13								
			個	個	個			個点	個点		個点		個点
			集計			総点数 (A)		評点 (B)		達成率(B/A*100)			
			①手続きの評価			5 × 7 = 35点		25点		71.42%			
			②協働の評価			5 × 14 = 70点		58点		82.85%			
			③事業内容の評価			5 × 13 = 65点		53点		81.53%			

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
1	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	評価不能（地元区民団体の提案によるモデル事業のため、評価に馴染まない項目である）
			事業に関する情報は、誰にでもわかりやすく提供されていたか	達成度の目安	協働の可能性のある事業の情報を早くから多くの人の目に触れるようにした			相手が決まる前に区報などの一部のメディアには公表した		特定の団体しか事業を知り得ることができなかった	
2	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	評価不能（地元区民団体の提案によるモデル事業のため、評価に馴染まない項目である）
			区があるテーマについての協働事業提案を募集した際の、公募方法は適切であったか	達成度の目安	毎回、事業を始める前に広く区民が事業を知り得るようにした			複数の対象団体等の可能性を検討した		公募も、複数の協働相手の可能性も検討しなかった	
3	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	評価不能（地元区民団体の提案によるモデル事業のため、評価に馴染まない項目である）
			事業の選考は、適切であったか	達成度の目安	選考体制、基準、対象などを定めた			結果として適切な事業が選ばれていると思う		選考らしきものはしていない	
4	協働に適した事業	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	地元区民団体からの企画書に、事業の必要性や事後の確認が可能な目標が言葉により明記されていた。また、区民参加型の事業内容や近隣対策等が掲げられていることから、適切な運営が期待できた。
			事業の目的や成果が明確に示されていたか	達成度の目安	成果に関する目標が、事後に測定可能な形で、文章や数値によって明確に表されていた			事業が達成されたときのイメージが、具体的に文章化され、その目標が明確に表されていた		「こういう状況になればいいなあ」という目標が一通り検討されていた	
5	協働に適した事業	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	当時の基本計画等には明確な位置づけはないが、プチテラス事業の目的（緑化促進・地域コミュニティ促進）を含む事業であり、モデル事業として実施することに於いて庁内合意と議会報告を行っていたことから、実験的事業としての位置づけは有していた。
			基本計画や分野別計画に位置づけられた政策や施策とあったか	達成度の目安	政策との整合性を検討し、位置づけが確認された			一部だけで検討し、特に問題ないと判断した		政策との整合性や事業の適切性の検討はしなかった	

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
6	協働に適した事業	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	区民団体の全ての能力を把握していたわけではないが、区民団体の自立の促進や、区・公社のコスト削減、柔軟な環境対策の実施が期待できた。
			単独で行うより協働で行うほうがよいことが明らかになっていたか	達成度の目安	お互いの能力を理解し、相乗効果について明確になっていた		一部だけで議論、確認した		協働して行う意義について検討しなかった		
7	事業のニーズ	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	環境対策については情報収集・分析が行われ、取り組み内容が計画されていた。また、地域コミュニティ再生や行政コストの削減が必要なことは既に明らかであった。また、事業計画は、これらを解決する取り組み内容となっていた。
			地域ニーズを明確にした社会的な課題を解決する事業内容か	達成度の目安	受益者に関する情報を入手・分析し、事業に役立てた		受益者の意見を聞いたり、日頃の付き合いで得た知識を参考にした		地域のニーズは特に参考にしなかった		
8	目的と成果の設定	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	環境対策や地域コミュニティの活性化といった得られる効果に対する根拠あるトータルコストの算定は行っていないが、公社の支出がなく、また、区が出費していた草刈費削減という自治体側のコストダウンも期待できた。
			得られる効果、コストを勘案して合理的に事業を計画したか	達成度の目安	当初から根拠あるコスト算定を行い、無駄な出費や人的資源に負担のない事業計画ができていた		漠然とした事業計画であったが、結果として無駄なく出費や人的負担なく行えた		適切な規模が想定できず、結果として予算不足や人手不足で事業に支障をきたした		
9	協働形態の選択	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	本事業では、相手先の自主自立の活動を保証することが重要であり、このことをふまえると、それぞれの特性・能力に応じた協働の役割分担が選択できた。
			適切な協働事業の形態を選択することができたか	達成度の目安	事業目的と主体の特性・能力に応じ、役割や関与の度合いが適切だった		お互いに努力が必要だったが、何とか問題なくできた		理解できず、役割分担がうまくいかなかった		
10	協働相手の選定	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	評価不能（地元区民団体の提案によるモデル事業のため、評価に馴染まない項目である）
			事業に時限性を設定するなど、ひろく他の協働主体の参入の機会を保障しているか	達成度の目安	期間を限定し、機会があるごとに複数の相手先が参入できるように検討している		検討はしたが相手を変えていない		毎年行っていることなので期間も決めていないし、相手を変えることも考えていない		

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
11	協働相手の選定	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	評価不能（地元区民団体の提案によるモデル事業のため、評価に馴染まない項目である）
			達成度の目安	事業の目的や性格に照らして競争原理を確保した公正で透明性のある協働相手の選定ができていたか	客観的な数値化された基準があらかじめ公表され、結果も公表された					競争はなかった	
12	協働相手の選定	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	地元住民提案による市民自立型モデル事業であることを考慮すると、相手先の選定は合理的であった。
			達成度の目安	協働の相手を限定する場合、それ以外の相手を選ばない理由は明確になっていたか	当該事業を通じて育成すべき主体であることの合理的な理由が明確になっていた					限定することは明確になっていた	
13	協働相手の選定	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	区民団体提案型事業であったが、環境に関する知識・経験と先見性を持つ地元NPO団体であり、適切なパートナーであると判断できた。
			達成度の目安	相手の特性や社会的な役割を理解した上で、協働事業の相手として妥当であったか	お互いの得意分野が有効に発揮でき期待した相手が選定できた					お互いに努力が必要だったが、何とか問題なくできた	
14	目的・ゴールの共有	①	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	事業計画の段階では、双方の話し合いにより、事業目的と達成したいゴールについての共通認識が十分行われていた。
			達成度の目安	事業目的、事業で達成したいゴールについて、関係者間で意識の共有がされていたか	双方同席の上充分話し合い、文章及び数値で明確に表したものを共通認識し、それを確認した					あいまいな内容だったが話し合いの場で確認はした	
15	役割分担	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	区との役割分担・相手方との役割分担はそれぞれ明確であり、当初設定した役割分担により円滑に進められた。
			達成度の目安	役割分担は妥当であったか	役割分担を明確にし、当初双方で合意した通りに円滑に進められた					当初役割分担を決め、厳格に守らなかったが、特に問題にはならなかった	

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小			評点の理由・特記事項		
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]			
16	事業の計画と着手	①④	協定書、契約書	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	必要な内容を盛り込んだ管理協定を締結し、この協定に基づき適切かつ円滑に事業が行われてきた。
				契約や協定の合意形成は適切であったか	達成度の目安	考えられる必要な内容を盛り込んだ契約や協定を双方合意の上作成し、それに基づき事業が進んだ			合意はしたが詳細についてはあいまいだった		契約書や協定書は作らなかった、または、作ったが細かい内容記載しなかった	
17	事業の計画と着手	④	計画性	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	区民団体では、事業計画等について綿密に打合せされており、団体公式サイトで公表されていたが、定期的な連絡調整があまり行われていなかったため、情報の共有が不足していた。
				事業計画や実施時期、スケジュールが明確に決められていた	達成度の目安	明確なスケジュールのもとに、業務の整理と役割分担が行われ、進行表、分担表が作成された上で運営された			担当業務とその業務の実施の時期は理解していた		実施時期が不明確で、担当者不在、特定の個人への業務集中など、全体の進捗に影響が出ていた	
18	事業の実施	①④	事業の実施	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	相手方から毎月業務報告書による報告を受けており、行事に関してはHPで情報公開が行われていた。しかし、現地訪問や意見交換は行わなかった。
				事業の進捗に対して、中間報告を受けたり、現地に赴くなど、その状況を確認したり、双方が自由に意見交換を行ったりしたか	達成度の目安	進捗状況が常に把握できる状況や体制になっていた			体制はなかったが、個人の努力により状況把握できた		問題発生後、相当時間がたつまで問題が把握できていなかった	
19	協働事業の実態	④	事業の実施	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	管理運営協定書に基本的な規定を設けていたが、具体的な連絡調整方法を定めていなかったため、予期せぬ事項への対応は十分とはいえなかった。
				予期せずに発生した問題・課題に適切に対応できたか	達成度の目安	双方合意の上あらかじめ、予期せぬことに対応できる体制が用意されていた			体制は考えていたが、機能しなかった		予期できない事態に対応する体制は作っていなかった	
20	事業の実態	①	事業の実施	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	開設当時と区民団体は強く認識していたが、区・公社側で十分な事務引継を行っていないため、目的・性格、期待する成果の認識が低下してきた。
				事業中も、事業の目的や性格、期待する成果を双方が十分共有し、常に認識していたか	達成度の目安	関係者間で、事業目的やゴールが文書などで明確化され、それを達成しようと強く意識していた			関係者間で、漠然とした意識の共有があり、大きな食い違いはなく、問題は起こらなかった		関係者の中に目的やゴールをイメージできていない人がおり、事業に影響が出た	

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
21	事業の実施	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	相手方の魅力的で多彩な事業活動により、区内外の参加者が増え、環境に対する意識の向上に寄与してきた。また、足立区と六町のイメージアップにも多大な貢献があった。
			協働相手とともに行うことにより、事業への区民の関心を高めることにつながったか	達成度の目安	相手先のおかげで、区民の事業への参加者が増えた、関心が増した		どちらともいえない・変化はない	協働相手と行うことにより、関心が低下した			
22	事業の実態	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	自由且つ対等な意見交換の場は十分用意されていたが、問題が生じることもなく、意見交換が必要という認識もなかったため、殆ど行われていなかった。
			協働主体双方が、事業に関して自由に意見を述べる事ができたか	達成度の目安	常に必要なお互いにお互いに意見を交換できる場がある		どちらかの努力により、意思疎通はできた。一部の人の意思疎通はできた	意思疎通ができていなかった			
23	事業の実施	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	協働事業そのものは、建設的であり有意義であった。また、社会実験の域は出ていないが、公共施設管理運営の一つのモデルを示すことができた。
			建設的で有意義な活動ができたか	達成度の目安	お互いに前向きに活動でき、事業遂行を通じて組織のレベルアップが図られた		一方のみは有意義だった	双方とも当初想定していた活動とはならず、不満が残った			
24	事後評価	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	事業目標は十分達成しているとともに、団塊の世代や高齢者・児童の居場所づくりにも貢献するなど、区内のみならず、国内外からも注目される成果をあげた。
			事業の目標は妥当なものであったか	達成度の目安	設定目標の達成が明確に測定され、当初の目標と合致した		明確な測定は行っていないが、概ね妥当と感じた	全く予期せぬ結果で終わってしまった、または測定できなかった			
25	事後評価	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	未利用地の暫定提供、区・公社の緩やかな関与といった面は効果をあげ、自主自立の市民事業が成立してきた。
			結果的に、協働することにより双方の特性が生かされ、よりよい効果が得られたか	達成度の目安	お互いの得意分野が有効に発揮でき、よりよい効果が得られた		相乗効果は得られなかったが何とか問題なくできた	双方の特性を生かせた結果が得られなかった			

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			大←達成度→小					評点の理由・特記事項	
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]			
26	事業の見直し	①	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	5	4	3	2	1	協働事業参加者がそれぞれの立場・それぞれの方法で振り返りを行ってきたが、一堂に会して話し合いを行ってはいなかった。
			事業終了後、振り返りをしているか	達成度の目安	双方が同じテーブルで話し合って結果が振り返れるようになっている	単独で行い、突合せをしていない	振り返りはあまり行わない					
27	評価結果	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	5	4	3	2	1	それぞれの立場と方法による振り返りだけ実施してきたものであり、指標を使った評価をはじめたばかりである。また、評価への区民参加や結果公表はこれまで行っていない。
			評価結果の公表や、評価への区民参加はできているか	達成度の目安	評価結果は公表し、区民からも改善の提案が行えるようになっている	包括的な評価結果の公開はするが、区民が意見を言う機会がない	評価しただけで満足し、公表していない					
チェック個数			7	14	13							
			個	個	個		個点	個点		個点	個点	
集計						総点数 (A)		評点 (B)		達成率(B/A*100)		
①手続きの評価						5 × 7 = 35点		28点		80.00%		
②協働の評価						5 × 14 = 70点		63点		90.00%		
③事業内容の評価						5 × 13 = 65点		56点		86.15%		

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
1	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。
			事業に関する情報は、誰にでもわかりやすく提供されていたか	達成度の目安	協働の可能性のある事業の情報を早くから多くの人の目に触れるようにした			相手が決まる前に区報などの一部のメディアには公表した	特定の団体しか事業を知り得ることができなかった		
2	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。
			区があるテーマについての協働事業提案を募集した際の、公募方法は適切であったか	達成度の目安	毎回、事業を始める前に広く区民が事業を知り得るようにした			複数の対象団体等の可能性を検討した	公募も、複数の協働相手の可能性も検討しなかった		
3	協働事業の導入	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。
			事業の選考は、適切であったか	達成度の目安	選考体制、基準、対象などを定めた			結果として適切な事業が選ばれていると思う	選考らしきものはしていない		
4	協働に適した事業	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	実験モデルとしての取り組みであり、ヒートアイランド、地球温暖化、環境教育拠点など大まかな目的は設定されていたが、数値や成果指標などは設定できなかった。
			事業の目的や成果が明確に示されていたか	達成度の目安	成果に関する目標が、事後に測定可能な形で、文章や数値によって明確に表されていた			事業が達成されたときのイメージが、具体的に文章化され、その目標が明確に表されていた	「こういう状況になればいいなあ」という目標が一通り検討されていた		
5	協働に適した事業	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	プチテラス設置要綱に基づいて実施している事業であり、施策内に位置づけられている。
			基本計画や分野別計画に位置づけられた政策や施策とあってきたか	達成度の目安	政策との整合性を検討し、位置づけが確認された			一部だけで検討し、特に問題ないと判断した	政策との整合性や事業の適切性の検討はしなかった		

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
6	協働をはじめた事業	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	区画整理事業用地の管理の視点と現場からの活用の視点には大きな乖離があったが、単独での解決は限界があった
			達成度の目安	単独で行うより協働で行うほうがよいことが明らかになっていたか	お互いの能力を理解し、相乗効果について明確になっていた		一部だけで議論、確認した	協働して行う意義について検討しなかった			
7	事業のニーズ	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	環境問題の関心の高まりは世界的なものであり、地域での具体的な活動も必要とされていた
			達成度の目安	地域ニーズを明確にした社会的な課題を解決する事業内容か	受益者に関する情報を入手・分析し、事業に役立てた		受益者の意見を聞いたり、日頃の付き合いで得た知識を参考にした	地域のニーズは特に参考にしなかった			
8	目的と成果の設定	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	漠然とした目的は持っていたが、しっかりとした事業計画はなかった。
			達成度の目安	得られる効果、コストを勘案して合理的に事業を計画したか	当初から根拠あるコスト算定を行い、無駄な出費や人的資源に負担のない事業計画ができていた		漠然とした事業計画であったが、結果として無駄な出費や人的負担なく行えた	適切な規模が想定できず、結果として予算不足や人手不足で事業に支障をきたした			
9	事業の計画と着手	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	区が土地を提供し、公社が仕組みを提供し、足立GPが運営ノウハウを提供するという点においては適切だった。区や公社から管理費などよりコミットする必要性も指摘できるが、その分運営の自由度があったため、創意工夫ができた
			達成度の目安	適切な協働事業の形態を選択することができたか	事業目的と主体の特性・能力に応じ、役割や関与の度合いが適切だった		お互いに努力が必要だったが、何とか問題なくできた	理解できず、役割分担がうまくいかなかった			
10	協働相手の選定	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。
			達成度の目安	事業に時限性を設定するなど、ひろく他の協働主体の参入の機会を保障しているか	期間を限定し、機会があるごとに複数の相手先が参入できるように検討している		検討はしたが相手を変えていない	毎年行っていることなので期間も決めていないし、相手を変えることも考えていない			

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
11	協働相手の選定	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので評価項目に馴染まない。
			達成度の目安	事業の目的や性格に照らして競争原理を確保した公正で透明性のある協働相手の選定ができていたか	客観的な数値化された基準があらかじめ公表され、結果も公表された			結果は公表された		競争はなかった	
12	協働相手の選定	②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	地元住民提案によるモデル事業であり企画書による選定は合理的であった。
			達成度の目安	協働の相手を限定する場合、それ以外の相手を選択しない理由は明確になっていたか	当該事業を通じて育成すべき主体であることの合理的な理由が明確になっていた			限定することは明確になっていた		必然性が明確にできないため、不安が残っている	
13	事業の計画と着手	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	土地の所有者は足立区で、仕組みの所有者は公社であったことから、選択の余地はなかった
			達成度の目安	相手の特性や社会的な役割を理解した上で、協働事業の相手として妥当であったか	お互いの得意分野が有効に発揮でき期待した相手が選定できた			お互いに努力が必要だったが、何とか問題なくできた		期待した役割を果たす相手が選定できなかった	
14	目的・ゴールの共有	①	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	スタート時点では新しい価値観を出すために共通認識はあったが、行政側の担当者が変わり数値による明確な共通認識がうすれていた。
			達成度の目安	事業目的、事業で達成したいゴールについて、関係者間で意識の共有がされていたか	双方同席の上充分話し合い、文章及び数値で明確に表したものを共通認識し、それを確認した			あいまいな内容だったが話し合いの場で確認はした		目的などについて認識はあったが、両方で話し合わなかった	
15	役割分担	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	事業の役割分担は明確にされており円滑に進められた。
			達成度の目安	役割分担は妥当であったか	役割分担を明確にし、当初双方で合意した通りに円滑に進められた			当初役割分担を決め、厳格に守らなかったが、特に問題にはならなかった		役割分担があいまいだった	

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小				評点の理由・特記事項	
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]			
16	事業の計画と着手	①④	協定書、契約書	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	簡易ではあるが、協定書を策定した。足立区は協定に入っておらず、その点は問題もある。
			契約や協定の合意形成は適切であったか	達成度の目安	考えられる必要な内容を盛り込んだ契約や協定を双方合意の上作成し、それに基づき事業が進んだ		合意はしたが詳細についてはあいまいだった		契約書や協定書は作らなかった、または、作ったが細かい内容記載しなかった			
17	計画性	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	計画はHPで公開しているが、アクセスできる状態だったが、公社には報告書のみ提出していた。区と公社の調整については外部のことなのでわからない。	
			事業計画や実施時期、スケジュールが明確に決められていた	達成度の目安	明確なスケジュールのもとに、業務の整理と役割分担が行われ、進行表、分担表が作成された上で運営された		担当業務とその業務の実施の時期は理解していた		実施時期が不明確で、担当者不在、特定の個人への業務集中など、全体の進捗に影響が出ていた			
18	事業の実施	①④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	中間報告は求められていないが、まちづくり大学等で発表している、中間報告の代わりとなっている。区の職員（まちづくり課以外も含む）が不定期にたちより、意見交換している	
			事業の進捗に対して、中間報告を受けたり、現地に赴くなど、その状況を確認したり、双方が自由に意見交換を行ったりしたか	達成度の目安	進捗状況が常に把握できる状況や体制になっていた		体制はなかったが、個人の努力により状況把握できた		問題発生後、相当時間がたつまで問題が把握できていなかった			
19	協働事業の実態	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	保険加入、救急箱の設置、熱中症対策などを事前に取り決め、具合が悪くなった職員への対応もできた。課題については全体会で共有し、事前に策を講じた	
			予期せずに発生した問題・課題に適切に対応できたか	達成度の目安	双方合意の上あらかじめ、予期せぬことに対応できる体制が用意されていた		体制は考えていたが、機能しなかった		予期できない事態に対応する体制は作っていない			
20	事業の実態	①	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	足立GPは事業開始時から認識があったが、公社や区との共有は十分ではなかったかもしれない。担当が変わるごとに対応するには限界も感じる。区・公社内部の問題。まちづくり課の新規担当者が4月に車で見学に来ることもあったが、あのようなことはルーティーン化してもよいのではないか？	
			事業中も、事業の目的や性格、期待する成果を双方が十分共有し、常に認識していたか	達成度の目安	関係者間で、事業目的やゴールが文書などで明確化され、それを達成しようと強く意識していた		関係者間で、漠然とした意識の共有があり、大きな食い違いはなく、問題は起こらなかった		関係者の中に目的やゴールをイメージできていない人がおり、事業に影響が出た			

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			点数	大←達成度→小			評点の理由・特記事項	
			手続の評価	協働の評価	事業内容の評価		[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]		
21	事業の実施	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	協働事業であるということに、大きな価値があった
			達成度の目安	協働相手とともにを行うことにより、事業への区民の関心を高めることにつながったか	相手先のおかげで、区民の事業への参加者が増えた、関心が増した		どちらともいえない・変化はない	協働相手と行うことにより、関心が低下した			
22	事業の実施	④	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	協働主体だけでなく、参加者に対しても自由に意見が述べられる機会が設定されている。質問の意味が良くわからない。
			達成度の目安	協働主体双方が、事業に関して自由に意見を述べる事ができたか	常に必要なお互いにお互いに意見を交換できる場がある		どちらかの努力により、意思疎通はできた。一部の人の意思疎通はできた	意思疎通ができていなかった			
23	事業の実施	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	用地を管理するという視点と活用する視点の明らかな差を証明できた
			達成度の目安	建設的で有意義な活動ができたか	お互いに前向きに活動でき、事業遂行を通じて組織のレベルアップが図られた		一方のみは有意義だった	双方とも当初想定していた活動とはならず、不満が残った			
24	事後評価	⑤	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	目標以上の成果があった
			達成度の目安	事業の目標は妥当なものであったか	設定目標の達成が明確に測定され、当初の目標と合致した		明確な測定は行っていないが、概ね妥当と感じた	全く予期せぬ結果で終わってしまった、または測定できなかった			
25	事後評価	③	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	5	4	3	2	1	双方の特性を活かし、未利用地の暫定利用を効果的に進めることができた。
			達成度の目安	結果的に、協働することにより双方の特性が活かされ、よりよい効果が得られたか	お互いの得意分野が有効に発揮でき、よりよい効果が得られた		相乗効果は得られなかったが何とか問題なくできた	双方の特性を生かせた結果が得られなかった			

	STEP	足立区における協働の原則No	チェック項目			大←達成度→小					評点の理由・特記事項		
						[達成できた]	[概ね達成できた]	[達成できなかった]					
26	協働事業のフィードバック	事業の見直し	①	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	5	4	3	2	1	足立GPは振り返りを行ってきたが、行政側は行っていなかった。
				事業終了後、振り返りをしているか	達成度の目安	双方が同じテーブルで話し合って結果が振り返れるようになっている							
27	評価結果		②	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	5	4	3	2	1	事業評価をはじめたばかりで結果の公表や改善提案はこれから考える。
				評価結果の公表や、評価への区民参加はできているか	達成度の目安	評価結果は公表し、区民からも改善の提案が行えるようになっている							
チェック個数			7	14	13								
			個	個	個			個点	個点		個点		個点
			集計			総点数 (A)		評点 (B)		達成率(B/A*100)			
			①手続きの評価			5 × 7 = 35点		27点		77.14%			
			②協働の評価			5 × 14 = 70点		65点		92.85%			
			③事業内容の評価			5 × 13 = 65点		62点		95.38%			

2-2 協働における課題

評価を通じて見えてきた課題について、本事業の優れていたこと、改善すべきこと、今後の協働事業に期待することに分類し、各々の立場で示します。

足立区都市整備部まちづくり課のコメント

優れていたと思われること	<ul style="list-style-type: none"> ◆雑草の生い茂る区有地を環境問題を意識し、憩いの場に活用することに積極的に取り組んだこと。 ◆六町地区だけでなく全国的に情報を発信し、環境問題への関心を高めたこと。 ◆アイデアが豊富でコーディネートが優れていたこと。
改善すると良くなること	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政側と定期的に会合を持ち情報交換ができると、事業への理解度が高まる（人事異動での理解度が薄れていった。）。 ◆事業途中での評価を実施できれば、より良い事業展開ができる。
今後の協働に期待すること	このモデル事業をコミュニティガーデンに活かし、区民、行政、企業のパートナーシップにより、明るく元気な地域社会づくりに展開していけると良い。

財団法人足立区まちづくり公社のコメント

優れていたと思われること	<ul style="list-style-type: none"> ◆協働という概念が確立していない時期に、区民提案事業の実現に取り組んだこと。 ◆区の施策を最大限活用し、区民団体の自立を促進しようとした。 ◆環境という異分野にまちづくりセクションが取り組んだこと。 ◆区民団体の自立促進に向けた役割分担と適切な関与ができたこと。
改善すると良くなること	<ul style="list-style-type: none"> ◆定期会合や積極的な交流により、事業への理解度や事業の達成意識が高まる（突発事項にも対処できる）。 ◆定期的な事業評価や評価結果に関する話し合いと事業の見直しにより、バランスの取れた事業展開が実現できる（外部評価も効果あり）。
今後の協働に期待すること	区・公社職員は定期的に異動があるため、後任への事務引継ぎは重要である。そこで、後任職員への十分なレクチャーと、協働に関する職員の見識と実務経験を高める取り組み（協働の体験と学習）を行うことが欠かせない。また区民団体は、面倒でも異動時期には後任職員との交流を積極的に図るようにする必要がある。

足立グリーンプロジェクトのコメント

優れていたと思われること	事業開始前は、ヒートアイランド対策をはじめとして地域における環境教育の拠点作りに主眼が行われていたが、やってみて地域づくり、市民のエンパワーメントへの効果が極めて高いことがわかった
改善すると良くなること	行政も現場視点が必要。足立 GP は自立がテーマであったために、ことさら行政に現場に足を運ぶよう求めなかったが、区や公社に現場を学習してもらおうという視点も必要だったかもしれない。事業開始時から考えると、協働の次元が次のステップに移っている。
今後の協働に期待すること	実験モデルが実験だけで終わらず、制度を含め、この事業がどこでもできるように仕組みづくりが必要。

2-3 まとめ

本事業は、プチテラスという公共施設に環境というテーマを与え、モデル的に提案型協働事業を展開したものです。事業評価は「あだち協働ガイドライン」の評価シートに沿って評価しましたが、公募による事業ではないのでチェック項目がなじまないことが明らかになり、提案型には、満足度・組織充実度などの別の指標が必要ではないかと感じました。

評価を通して、環境対策や地域コミュニティの活性化に優れた事業であることが確認されましたが、お互いが学びあい、確認し合い、活発に意見交換をするなどのパートナーシップにもう少し努力が必要であったと思います。特に区・公社は人事異動による後任への引継ぎは重要であり、現場に足を運び交流を積極的に図る必要があるでしょう。

事業評価結果を見ると、手続き・協働・事業内容の3項目のバランスがよく事業スタートから5年余りが経過しますが、年々事業の次元がステップアップしています。また、協働事業にはコーディネート力の必要性和PDC Aのサイクルを回すことの重要性を感じました。本事業が、実験で終わらずに、今後活かされることを期待します。